

しょうがい学生支援室「実践！バリアフリー講座」共催プログラム

日時：2013年6月22日（土） 13：30～15：30

会場：立教大学池袋キャンパス 14号館D601教室

(1) 「聴こえないって、どんなこと？ —聴覚しょうがい理解と支援の実践—」

講師 野崎 静枝氏（本学兼任講師「日本手話1-4担当」）
細野 昌子氏（本学兼任講師「日本手話1-4担当」、筑波技術大学非常勤講師）
岡田 直樹氏（日本手話通訳士協会）

日時：2013年10月19日（土） 13：30～16：00

会場：立教大学池袋キャンパス 10号館X105教室

(2) 「車いすにのってみよう！ —車いす利用者理解と支援の実践—」

講師 田丸 秋穂氏（国立大学法人筑波大学附属桐が丘特別支援学校支援部教諭）
加藤 裕美子氏（国立大学法人筑波大学附属桐が丘特別支援学校支援部教諭）

日時：2013年11月9日（土） 13：30～15：30

会場：立教大学新座キャンパス 8号館N422教室

(3) 「アイマスクをしてキャンパスを歩いてみよう！ —視覚しょうがい理解と支援の実践—」

講師 岡前 むつみ氏（東京都立久我山青光学園視覚障害部門教諭）

実践！バリアフリー講座（1）

「聴こえないって、どんなこと？」

野崎 静枝氏

（本学兼任講師「日本手話 1-4 担当」）

細野 昌子氏

（本学兼任講師「日本手話 1-4 担当」、
筑波技術大学非常勤講師）

岡田 直樹氏

（日本手話通訳士協会）

生い立ちと家族

○野崎 私は、北海道釧路の生まれです。「金」と「川」という手話を合わせて「釧路」という手話になります。釧路は北海道の東側にあり、すごく寒いところです。私は1歳のときに聞こえなくなり、釧路ろう学校に中3まで通いました。高校は、聞こえる人たちの学校に興味があって普通校に通いました。その後、3年制の筑波技術短期大学^(注1)へ進学しました。大学に入って、もっと手話を深く知りたい、知らなくてはいけないと気づきました。手話というろう者の言葉、それを生かした劇をやりたいと思うようになり、また、手話で教育をするろう教育にも興味を持ち、今は、NPO 法人「しゅわえもん」というろう児のための団体で活動しています。家族構成は、夫とその両親、息子と娘の6人家族です。娘だけが聞こえて、あとの5人はろう者ですので、家族の中心となるコミュニケーション方法は手話です。

皆さんにとって聴覚しょうがい者はみんな同じと思われるかもしれませんが、しかし、実際は、その環境によってコミュニケーション方法がかなり異なります。私の実家では、父は聴者、母は中途失聴者です。そのため、母はろう者に通じる日本手話は獲得していません。日本語に合わせて少しずつ手話を覚えています。母は補聴器をつけて何とか父の言葉を聞いていましたが、徐々に効果がなくなり、その頃から、筆談がコミュニケーション方法になりました。私たち三姉妹は全員聞こえません。下の姉は、聴力がいいほうで、難聴者と

いうカテゴリーと言えます。電話ができるぐらいなので、親の方針で普通校へ行きました。でも、音読の時間、変な声と笑われて傷ついたという話を聞きました。上の姉は私と同じでろう学校育ちです。ろう学校では、そんなに苦しい思いはしなかったのですが、口話主義^(注2)で、手話は禁止されていた時代です。でも三姉妹とも手話でとても楽しく会話ができます。しかし両親は、それを読み取れません。母と私たちが話すときには、日本手話ではなくて、日本語に近い手話^(注3)に翻訳をして表現していました。それでも、いつも笑いが絶えない温かい家族でした。父とのコミュニケーションは、父の口形を読み取って理解していましたが、大切な話の場合は限界があり、誤解が生じることもあります。一度たばこを買いに行ってくれと言われたのに、卵を買ってしまったことがあります。「たばこ」と「卵」は口形が同じなので手話か身振りをつけてくれたら分かったと思うんですが。しかし、父とも仲が良く、信頼関係がありました。父からは家訓として「耳が聞こえなくても心にしょうがいを持つな」とよく言われました。聞こえなくても、誰とでも仲良くし、交流ができるようにと言われました。

聴覚しょうがい者とは

今、家族について話をしましたが、中途失聴者、難聴者、ろう者という単語が出てきました。こういう人たちに出会ったときにどんなコミュニケーション方法が一番いいと思いますか？

まず、ろう者の場合。補聴器をつける、つけないは個人で違いますが、手話をメインに使っている人にとって、心置きなく会話ができるのは手話です。でも、手話ができる聴者^(注4)は少ないので、次の手段として、筆談がいいと思います。大事なことは文字化してお互いに誤解が生じないようにする必要があります。しかし、ろう者にとって日本語は第二言語です。常に耳から日本語が入ってくるわけではないので、外国語と同じように勉強

しなければなりません。ですから、日本語が苦手なろう者もいます。筆談でも少しづれがある場合は、手話通訳を通してきちんと伝える必要があります。次に中途失聴者。途中で聞こえなくなったわけですから、普通に話せるんですね。自分の声で会話ができるので、誤解されることが多い人達です。最後に、難聴者は、手話ができる、できないは、人それぞれです。その方に合わせて筆談、口話などがいいと思います。

現在はITが発達し、メールでやりとりができるようになりました。FAXや手紙などは今ではあまり使わないと思います。また、最近、SkypeやTangoといったTV電話がはやっています。私は最近、Tangoを使っています。代理電話サービスをしている会社もあり、こちらが手話で話すと、相手先にリアルタイムで電話をしてくれます。

ろう者の生活、コミュニケーション方法などを分かっていただけだと思います。

日本手話を学んでみよう

これから、皆さんに、ろう者と出会ったときに使える手話を学んでいただきます。***ナチュラルアプローチによる手話講座を行った。**

皆さん、なるほど、これが手話なのかと思うかもしれませんが、実は二種類の手話があるんです。一つがろう者が使う日本手話。もう一つは、日本語対応手話、これは実際に手話としての手の動きはありますが、文の流れなどは日本語に対応しているものです。

二つの手話の大きな違いは、NMM^(注5)です。これは、非手指副詞と言われ、手以外の動作にそれぞれ文法的な意味があります。対応手話にNMMはありません。日本手話では、眉を上げると質問になり、目の見開き具合で距離感を表します。例えば、「遠い山」と言うときには、「山」という手形で目を細めると、(名詞と)形容詞が同時に表現できるわけです。また、あごの動き、マウスジェスチャー、視線一上に上げると敬意を表



す一、そういった動きも文法的な意味を持っています。

では、今から私の好きな詩を皆さんに披露します。宮澤賢治の「雨ニモ負ケズ」です。***手話による朗読が行われた。**

今日は手話の世界の一部をのぞいていただきましたが、何か気づきがあればいいなと思います。ありがとうございました。

ノートテイクをやってみよう

○細野 引き続き、ノートテイク実践を行います。聴覚しょうがい学生への情報保障支援の一つに「ノートテイク」があります。今日は皆さんに、それがどんなに大変か、あるいは、やりがいがあるかということを経験していただきたいと思っています。では、始めます。***約600字の例文を読み上げ、参加者がノートテイク体験をした。**

実践2に移ります。今度は、講演者が聴覚しょうがい学生の参加を考慮して視覚教材を準備し、工夫したらどう変わるか、ノートテイクがどのくらいやりやすくなっていくかを体感していただきます。手元の資料に沿って話しているときには、聴覚しょうがい学生に、ペンで指示すればいいように作ってあります。その内容に付け足した情報があったとき、ノートテイクをしてください。

***以下例文（紙面の都合上、配付資料は掲載できません）**

『大学の情報保障支援』というテーマで話をします。高等教育機関に学ぶ学生数は320万人、しょうがい学生が1万1,800人です。その内、聴覚しょうがい学生が1,488人で、内訳は、ろう学生、578人。両耳の聴力が60dB^(注6)以上で補聴器を使用しても聞き取りに限界がある高度難聴者です。2番目が難聴学生885人。両耳の聴力が60dB以下、補聴器使用で聴き取れる可能性がある中軽度難聴者。3番目が発声、発語に機能しょうがいのある学生25人。聴覚しょうがい学生が高等教育に在籍していた一番古い記録は1960年で、20名でした。70年代になると200名に増え、残念ながら70年代から93年までのデータがありませんが、87年に筑波技術短期大学が創立された事実から見ると、社会的にニーズが出てきたということがわかります。その後徐々にしょうがい学生が増加し、04年ぐらいから伸び幅が大きくなりました。05年、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)が設立、教育機関に対するサポートが開始され、そこから大学などでの支援が構築されてきたという流れがあります。07年以降聴覚しょうがい学生の在籍数が1,400～1,600名の間で動いています。

聴覚しょうがい者は音の大きさだけに頼って情報を得ているわけではなく、口形読み取り、あるいは、本人の聞こえと発話者の声質との相性、文脈を把握する力—想像力を働かせて、文脈の中で

内容を理解する能力—も関係します。つまり、聴覚しょうがい者は、総合的に情報を得ていると言えます。他者にはその状況が把握できないので、本人にどのような情報保障が必要かを確認することも大事です。もう一つ、自分は軽度あるいは中度だから聞こえていると思いこんでいる聴覚しょうがい学生も多くいますので、大切な情報は文字化することが必要です。次に、実際に大学でどのような情報保障がされているかの例です。まず、ノートテイク(手書き、パソコン)、これは圧倒的多数の支援方法です。PC(パソコン)テイクはより情報量が多いので、今後主流として機能して欲しい支援方法の1つです。これらは講義型の授業には向きますが、ゼミやグループワークなど参加型の授業には手話通訳が向いています。授業の形態によっても支援方法は変わってくるということです。FMマイクは、しょうがい軽い学生たちに向いているものです。FMマイクを教員に付けていただき、それで学生がかけている補聴器、最近では人工内耳^(注7)の受信機能を使って情報を伝えるという昔からある支援方法の1つです。』

聴覚しょうがい学生への支援

ここまでがノートテイク実践2でした。このように教員が支援者、学生と協力して進める授業は理想的ではないかと思います。

私は英語が専門で、支援体制などを研究しています。2011年に「一般大学に学ぶ聴覚しょうがい者の英語受講時の情報保障に関するアンケート調査」を実施しました。63人の聴覚しょうがい学生から回答がありましたが、立教大学の学生さんも協力してくださいました。その中で分かったことは、まず、英語科目の多様性です。Reading、Oral、Presentation、TOEICなど13科目。その中で「聞く、話す」の2技能中心に学ぶ科目、「読む、書く、聞く、話す」の4技能を使って学ぶ科目がトータル9科目。つまり、13科目中70%は聴覚しょうがい学生が苦手であろう「聞く、話す」技能が



求められています。

こちらは大学が提供している英語科目の支援率の比較表です。読解、英会話に対する大学からの支援の割合は近似しています。次は支援提供者の分類表です。教員の配慮、ノートテイク等を配置した支援、支援機器利用の割合を表しています。この表は大学から受けた支援に対する満足度から支援の有効性を調べたものです。「大学からの支援数が多く、学生の評価も高い」、「支援数は多いが、学生の評価はいまひとつ」、「支援数は少ないが、学生の評価は高い」、「支援数も少ないし、学生からの評価も低い」という4つに分け、さらに受けた支援も調べました。結果、英会話と読解では、学生はそれぞれに違う形の支援がいいと思っているのですが、大学から提供されている支援はそんなに変わらないという問題が隠されているということが今回分かりました。

情報保障支援全体のポイントですが、教職員、支援者、しょうがい学生が話しやすい環境でお互いが連携を組んでいく。教員が担う役割項目が多いので、職員や支援者側としては、しょうがい学生だけでなく、教員も支えていくという体制が大事ではないでしょうか。それで初めてチームとして支援が成り立っていくと考えられます。私も教員として、肝に銘じているところですが、教員はしょうがい学生に配慮した授業はすべての学生にとって分かりやすい授業となること（ユニバーサルデザイン化）を念頭に工夫していく事を提案したいと思います。それとともに、英語科目に特化したポイントですが、一般の支援よりも、支援者に英語能力が問われるので、帰国子女、留学生等、人材発掘の必要性、音声認識機器などのITC導入も大切になってきます。

※注1 「ろう者だけの大学」：国立大学法人筑波技術大学（現在は4年制）には2つの学部があり、産業技術学部は聴覚しょうがい者のための、保健科学部は視覚しょうがい者のための学部で、国内唯一の



聴覚・視覚しょうがい者に特化した国立大学。

※注2 「口話主義」：聞こえない人が相手の口の形から話の内容を読み取る「読話」、聴覚しょうがいのある人が自分の声で話をする「口話」を総称して「口話」という。ろう学校では、最近まで、このコミュニケーション方法を中心に訓練を行い、手話を禁止している学校も多かった。

※注3 「日本語に近い手話」：日本語対応手話のこと。

※注4 「聴者」：「健聴者」という言い方が一般的だが、「健」という文字が不適切な印象を与えるため、単に「聞こえる人」を意味する「聴者」という言葉に言い換えて使用する。

※注5 NMM：Non Manual Markers

※注6 dB：デシベル。音の大きさを表す単位。20歳前後の聴者が聞き取れる最小の音を0dBとする。

※注7 人工内耳：手術をして、内耳に電極を埋め込み、その電極で脳に音を伝えていく装置。

実践！バリアフリー講座（2）

「車いすにのってみよう！」

田丸秋穂氏・加藤裕美子氏

（国立大学法人筑波大学附属

桐が丘特別支援学校支援部教諭）

肢体不自由ってなに？

○田丸 肢体不自由というのは、いわゆる運動に不自由があるということで、自分の意図どおりに動かすことが難しいと



手動と電動の車いす、違いはなんでしょう

いう「状態像」を指しています。その原因は何なのかという、非常に多岐にわたっていて、1つの理由、原因で、肢体不自由になるというものではないんです。

たとえば、脳性まひの方たちの中には、目の前にあるコップを取ろうとしたときに、目の前にあるものであれば、肘を伸ばせば届くんですけども、それを取ろうとすると、逆に、もっと体が縮んでしまって、気持ちとしては手を伸ばしたいんだけど、結果的には、もっと体を曲げてしまうというような動きが出てしまったりと、少し極端な場合もあります。それから、例えばまわりと同じペースで動くことが難しいということもあります。自分のやり方と自分のペースで活動する分には、そんなに困らないですけども、特に学校や集団の中で活動しようと思うと、周りのスピードに合わせていくときに大変さが出てきてしまうといったこともあります。そういったことを全て含んでいます。腕や足、それから体、体幹部になりますけれども、体を支えるということに、思ったとおりにならない不自由さというのを持っている、そんなふうに肢体不自由をとらえていただけると、この後の話もイメージが持ちやすくなると思います。

実際に肢体不自由の方のお手伝いをするとなると、その方がどういう原因で、それからどういう

状態があるのかということ、個々に見ていかないといけません。肢体不自由であればこうすればいいというようなものではなくて、しっかり、全てのことをお手伝いしてあげたほうがいい方、全部こちらでやってあげなくても、むしろやってあげちゃうことで、かえって本人がやりにくくなってしまうなんていう場合も起きます。なので、ここでは多様だということが1つと、実際に関わるときには、個々の特性というものをそれぞれに聞いていただけるといいのかなという2点をお話しさせていただきました。

車いすと一口に言っても、実はいろいろな種類があります。車いすも目的によって使い分けされます。手動であれば、車いすがちょっとコンパクトになりますから、少し狭いところでも行きやすいというメリットがあります。例えば、同じその人が、学校の中、決められた範囲のところであれば、それで十分なんだけれども、じゃあ、ちょっと遠出をしたいな、電車に乗って遠くに行きたいなとか、周りの子どもが自転車で行けるようなところにちょっと行きたいな、なんていうと、手動では逆に時間もかかってしまいますし、着いたらへとへとになって何もできなかったということが起きます。そうすると、目的地までよりスムーズに、速く進むために違う方法を使うことも考えます。目的によって、電動か手動か、考え方をえたり、形状についても、長くそこで快適に生活するとすれば、やはり薄いクッションで硬いところに長時間座るよりは、柔らかいクッションで、安定性のあるもので生活したほうがいいですので、そういったものをしっかりつけていこうという考え方で使いわけていくんです。

車いす体験、はじめての発見

実習（池袋キャンパス内を2人1組で車いすのる・介助する体験をしました）

○田丸 お疲れさまでした。自分で車いすを操作して移動してみるとということと、援助者として隣

で見守るといふ、2つの体験をしてもらったんですが、感想はありますか。

○**学生** 思ったよりも、道のほこほこだとか、へこみというのが、普段は全然意識していないけれども、車いすにのると危険なことが多いなと思いました。

○**田丸** ありがとうございます。あと、私が途中で、大変だったら頼んでくださいと言ったんですけど、何か援助者に頼んだという人いらっしゃいますか。

○**教職員** エレベーターに入って、出るとき、最初は自分でバックで出たんですけど、ちょっとぶつかったり、怖かったのもあったので、2回目はお願ひしました。

○**田丸** そうですね、狭いところで後ろ向きって、何も見えなくなっちゃうんですね。車いすって、前のほうは大体、自分の膝ぐらまでしか把握できなくて、さらに、後ろって把握しにくいんですね。車いす用のボタンがついているエレベーターは、縦長の鏡がよく張ってあると思いますけれども、実はあれって、鏡があると後ろが見えるんですね。なので、鏡を見ながら動くと、逆に今度は一人でできるかもしれないと思いがちです。

普段歩いているときは何も不自由を感じないんだけど、車いすののってみると、何か行きにくさというのを感じる。でも、それが何なのかはよく分からないから、何か行けそうな気がする。そんな思いも感じたかもしれません。

○**加藤** 今、皆さんが実習に出ていくとき、ちょっとここを曲がるだけでもすごく大変な思いをされて、この後どうなるのかなと感じました。戻ってくるときは意気揚々と、最初の出ていくときの姿はどこに行ったのかなというぐらい、介助する側もされる側も、やっぱり最初とは違いましたね。どうして違ったのかなというあたりは、操作性の向上プラス、やっぱり何かがあったと思うんです。初めて2人組になってくださいと言われ、よろしくお願ひしますから始まって、戻ってくるまでに



実は平らではない道、結構大変です

いろいろな話をされますよね。頼んでいないけど、何となく手をすーっと差し伸べてあげていたりとか、2人の関係ができてくると、介助するほうも、されるほうも、何かスムーズになってきたんだな、と思って見させていただきました。

体が不自由って、どんな感じ？

○**加藤** この後は、体が不自由ということは、どんな感じであるのか。動かしにくい、逆に動くということはどんなことなのかを、いろいろ体験しながら考えてみたいと思います。

介助するときに、すごく大切になる動き、「立たせてあげる」ことが結構介助のいろいろな場面で出てくるかと思っています。そのときの介助の仕方をちょっと考えてみたいと思います。まず、一人で立つということを、ちょっと意識してやってみてください。その場で結構です。立つ。その感じでは、2人組になって、向かい合っていたできます。お一人の方は座ってください。もう一人の方は、その前に立っていただいて、座っている方のおでこを軽く、ちょっとだけ押さえてあげてください。座っている方は、じゃあ、ちょっと立ってみてください。

○**学生** 立てない。

○**加藤** 軽くですよ。ぐーっと押さえ込むんじゃなくて。気持ち押ししていただければ結構です。じゃ



立てないのはなぜ？

あ、交代してみてください。

○**教職員** 頑張らないと立てない。

○**加藤** 立てた人も、さっき一人で立ったのとは、ちょっと違う立ち方していますね。

○**学生** いや、立てなかったです。催眠術にかかったみたい。

○**加藤** 皆さんどうでしょうか。先ほど一人で立ってくださいといったときは、立ちやすい。ここに何かあると、無意識のうちにこう立っています。立ち方がちょっと変わりました。立てないことはないですよ。でも立ちにくいと感じられたのは、何が原因だと思います？こうやって一人で立つときの重心ってどうなっていますか。

○**学生** そうか、重心移動が。

○**加藤** そう、重心移動なんです。意識していませんけれども、動きの中には重心移動が大事なんです。過緊張で、足がついていないというのは、重心がうまく取れないということにもつながります。立つときも、足裏をしっかりとつける。よく介助するときに、ふっと手を持って、何も言わずに介助する方がいるんですが、まずは足がしっかりとついているかな。重心移動して立つんだということが分かれば、少し介助しやすいんです。

どうでしょう、介助って。すごく難しいように思うかもしれないけれども、例えば、あのおばあ

さん、何か重い荷物を担いで大変そうだなって思ったとしますよね。(黙って後ろから荷物を持つ)これ、何か足りませんね。何でしょう。どうしたらいいでしょう。

○**学生** 言葉をかける。

○**加藤** そうですよ。ありがとうございます。何か親切心で、何となく、あ、持ってあげようと思って、ヒュッと持ち上げると、持っていた人にはふっと取られる。これは車いすにのっていたり、体が不自由な人も、根本は同じなんです。親切心でふっと持ってあげようと思うじゃないですか。だけど、何げなく車いすで、後ろからヒュッと押してあげちゃったりとかするけど、何も自分はお願ひもしていないし、自分でゆっくりだと行けると思っていたのに、後ろから急に押されちゃったみたい。でも介助してあげる人にしてみれば、とても親切に、ああ、困っていそうだなとか、ちゃんと観察はして、声はかけたんだけど、何かそこがうまくいかないなという。だから言葉かけというのは、介助する上で一番大事なのかなと思いますね。でも何気なくやっちゃうんです。何となく手を出しちゃうんです、後ろから。

それから、やってもらうことに慣れていないと、困っていないと答える方も多いです。やってもらうのが当たり前になっていて。何も困っていないですよ、なんていう。でも、実際には、いろいろところで支援してもらっているんですよ。慣れていけばいろいろなことができるんです。時間が幾らでもあるよと思えば、幾らでも自分でできる。疲れれば休めばいいし。だけど、次にこんな活動があって、楽しい活動がそこで待っていて、自分ではそこで間に合わせなきゃいけないといったときに、自分から、それから助ける人も、そういうときに必要になってくるんですよ。

学校生活の中で

○**加藤** 学校生活の中で一番多いのかなと思うのは、みんなのペースに合わせていくということ。

かばんの荷物のお出し入れですか、プリントの受け渡しなんかもそうですね。細かいプリントを1枚1枚取ったりする、手の巧緻性を必要とするようなときに、ゆっくりだとできるんだけど、はいと、ぱっと隣に渡せないとか、そういうあたりも必要な場面は出てくると思います。あと移動面ですね。きょうは車いすで実際にのっていただいたので、声をかけて、お手伝いしましょうかとか、一言声をかけてということもすごく大事ですし、きょうは雨が降らなかったのよかったですと思うんだけど、これで雨降ったら、ただそこに行くのでも、かっぱを着て、脱いで、雨水を払って、またどこかに入れてとかね。そういうときに、ああ、次は何分までに授業が始まるから行かなきゃいけないなんていうときは、すごく焦っている場面で支援が必要だと思います。

体が不自由とは、体の動かさない部分だけじゃなく、いろいろな感覚面もすごく関わってくるんだというのを経験していただきました。これから支援をするにあたって、してあげるという意味ではなくて、何か自分で感じて、感じ合いながら関わっていくということが大事なんですね。

○田丸 いつ介助するかとか、どのくらい手伝えばいいかということは、非常に見きわめが難しいと思います。それをどうやって決めていけばいいのかというのは、どちらかが決める。介助者が決めるということではないんですね。介助というのは、今は特別なものではなくて、生活の一部なんですね。それがなければならぬに、だけれども、集団の中でとか、ある程度基準の中で自分が行動しようと思えば、切っても切り離せないものとして起きてくるものです。そんな中で、自分が必要な介助を適切に依頼するというのも、実は本人のスキルとしてすごく大事な部分なんです。

うまく言えば、援助は受けられますし、でも、みんな忙しそうだし、今言っているのかなど。困っているオーラを出せる人は、そういう形で発信する人もいるかもしれません。

実はそのコミュニケーションがうまくいかないと、結果的に、移動したいけど自分の行き方とか、自分でできるところは自分でコントロールしたい、そこも含めて援助されてしまうということに、何となく違和感を感じてしまう。そこでどう動くのかというのが、実は生活の一部、適切な生活を送るためのスムーズな援助としては、すごく大切な部分ということになります。

本人も、援助ということをも自分の中である程度分かっていけば、これは頼んでやってもらったほうがいいと。だから頼めます。実は本人も、援助を選ぶことができる。一口で介助ってこれをやればいいですか、こういう手順でいけばいいですというものではなくて、本人が何がしたいのか、どうやりたいのかということの中にあると思います。手伝えることはほんのごく一部かもしれません。そのことも頭の隅に置いて、援助を受ける、援助をしたいと思う対象の方をよく見てみてほしいと思います。

実践！バリアフリー講座（3）

「アイマスクをしてキャンパスを歩いてみよう！」

岡前 むつみ氏

（東京都立久我山青光学園視覚障害部門教諭）

声だけを頼りに机の上の物を探そう

○岡前 これから視覚しょうがいの方と歩くときに、皆さんが一番よく使う言葉の体験をしてみたいと思います。アイマスクが2人に1つあると思いますので、まずはアイマスクをする方を決めたいと思います。お隣同士、よく知っているという方はいます？いない？この後、外を歩いてもらいますので、何と呼んだらいいも含めて、ちょっと自己紹介をしてみてください。どうぞ。

（自己紹介）

机の上にあるものを置いて、それをアイマスクの方が探すという体験をします。1つ、ペンでも



消しゴムでも何でも結構ですが、決めてもらっていいですか。ではじゃんけんをして、勝ったほうがアイマスクをします。どうぞ。

ではアイマスクの方にお話しします。これからお隣のペアの方が、机の上に、ペンなり何か決めたものを置きます。両手を使って、手のひら、指をしっかりと使って探してください。

ペアの方、アイマスクをしていない方をお願いします。いろいろな体験をしていただきたいので、まず1回目は、私が場所を示しますので、そこに無言で、音を立てずに置いてください。

ではアイマスクの方、探してみてください。どうぞ。探せたら、そのまま上げてください。

それを、ペアの方に渡してください。探すのは不安がありましたね。どこにあるか分からなかったですよ。では次、同じ場所に置くとは限りませんからね。音を立てずに置いて、置くときに、「ここに置くよ」としか言わないでください。音は立てないでください。はい、探してください。探せたら上げてください。

では次に、これが最後です。アイマスクをしていない方は、自分で考えて、相手の方が探しやすいような言葉をかけながら置いてください。音は立てないでください。はい、どうぞ。

探せましたか。交代してください。今と同じパターンをもう一回ずつやります。では、音も立てずに、何も言わずに置いてください。はい、どうぞ。

はい、探してください。ありましたか。あつたら上げてください。皆さん探しました？

はい、じゃあ次に、「ここだよ」と言って置いてもらいます。どうぞ。

では最後に、お隣の方が言ったような言葉がけでなくてもいいです。自分で考えて、一番分かりやすいように言葉を添えながら置いてください。どうぞ。

皆さん、探せましたか？アイマスクを取ってください。私たちは見えているので、何も言わなくて置いても、ぱっと手が伸びますよね。「ここだよ」と言われても、ここというのが見えているので取れますよね。アイマスクをしていると、「ここだよ」だけでは、どこだろうと思いませんでしたか。そのときに皆さんが工夫していたのが、「右側に置きます」とか、あとは「10時方向に置きます」などの言葉です。「どこ」「そこ」「ここ」とか、それから無言で何かをするのではなくて、必ず言葉を添えてください。そうしていくことが視覚しょうがいの方と歩く時にもとても大切になっていきます。この机の面ですと、右とか左とか、右奥とか、右手前などの言い方。クロックサインという、手前の真ん中が6時の位置で、真ん中の奥が12時の位置とかというように、時計の針の位置を使って伝える方法もあります。

お金の弁別

皆さんお財布から硬貨を出してみてください。1円、5円、10円、50円、100円、500円。視覚しょうがいの方も硬貨をジャラジャラとお財布に入れていたり、場所を分けて入れていたりもしますが、実際、お釣りをもらうときは、ジャラジャラといろいろな種類の硬貨が全部一緒に手渡されます。その区別の仕方を一緒にやってみたいと思います。あれば1円と10円、持ってみてください。持ってみると軽さが違うのが分かります？大きさも全然違うんです。実は1円は、1グラムです。小学校の算数で使ったと思いますが、10円と

100円がもしあれば重ねてみてください。重さはそんなに変わらないんです。大きさがほんの少し違います。一番区別しやすい方法が、側面を爪で触ってみること。10円の100円の違いはそこで比べます。あと500円玉は完全に大きかったり重かったりするので、すぐわかります。あと5円玉と50円玉も、穴の大きさが違ったり、ちょっと重さが違ったり…そうやって比べていきます。後から皆さんにこれをやっていただきますので、覚えておいてください。

あとはお札。お札の種類が今は、日本は1万円と5,000円と1,000円です。

視覚しょうがいの方に区別がつくようになっていくことは知っていますか。右下や左下に、1,000円、5,000円、1万円で、違う印がついているんです。結構わかりにくいんですよ。1,000円は横棒、5,000円は八角形になっています。1万円はL字のようなかぎかっこになっています。お札の大きさも少しずつ違います。1万円が一番大きくて、5,000円、1,000円となっています。なので、お札も入れる場所を変えたり、お札の折り方を変えたりします。お札の折り方を変えてお財布の中に入れておくと、触るだけでそれが出せますよね。

介助歩行で、飲み物を買に行く

今、室内で少し介助歩行をやってみました。この後、キャンパスの中で介助歩行をしてもらいますが、必ず介助者が一歩前。カップルのように腕を組んで一緒に歩けばいいじゃない？と思う人がいますが、実は介助者が止まったときに、視覚しょうがいの方は、「あ、止まったな」と思って、自分が止まったとしても必ず介助者よりも一歩前に出てしまうことになります。同じ位置で横に並んで歩いていると、視覚しょうがいの方が介助者が止まったときに一歩前に出てしまっ、意外とそれで壁や障害物にぶつかったりしてしまうので、一歩ぐらい下がって歩きます。

介助歩行をするときは、いろいろなところで言



葉をかけながら。そうしないとどっちへ行くのか不安になりますよね。必ず、「ちょっとそこを曲がりますよ」ではなくて、「2～3メートルぐらい先を右に曲がります」というように声をかけてください。

皆さん、緊張して歩くと肩が凝ってしまうだけではなくて、視覚しょうがい者の方に介助者の動きが伝わりにくいこともあります。介助者も視覚しょうがい者もリラックスして歩けることが、長い時間歩けることや、いろいろな情報が伝わりやすくなることにつながります。

これから皆さんにキャンパス内を歩いていただくときに、コミュニケーションを取っていただく必要があります。分かりやすい言葉。分かりやすい言葉の速さ、量、あとは年齢に応じた言葉遣い。皆さんが小学生と歩くときに、すごく難しい言葉で話しかけながら歩いても、相手は分からないですよ。なので、年齢に応じた言葉遣いをします。あとは「あっち」「こっち」「そっち」など、こそあど言葉はなしで。できたら位置や方向、ものを表す言葉を使って話してください。

それから白杖で歩いていくときに、体がいい姿

勢でないとしても難しいです。皆さんは、目で見てるので、体を真っ直ぐにして歩けます。それが目をつぶってしまうと、意外と右に曲がったり左に曲がったり体の癖が出ます。視覚しょうがいの方にとっては、いい姿勢を取れることが大切なので、小さいうちからなるべくいい姿勢を取るように伝えています。

では、これから体験に移ります。持ち物はお財布です。必ず2人1組で動きます。アイマスクをつけていただきますが、つけてくださいということまでは、アイマスクはしないでください。立教大学に通っている方は分かると思いますが、まず1組目は、フォレストの自動販売機でアイマスクの方が飲み物を選んで買います。アイマスクをされる方は、どうしたらいいか、介助される方は、どうしたらいいかを考えて買ってください。終わったらアイマスクを交代して、サブウェイの隣の自動販売機でまた買ってもらいます。必ず介助する方は考えて、なるべく早めに声をかけてください。どういう声をかけるかは自分で考えてください。

お互い信頼し合うのは大切なんですけども、怖かったりしたら、必ず「ちょっと怖かったです」と伝えてください。そうしないととても危険ですので、よろしいでしょうか。

階段があるところでは「階段があります」では、



上るか下るかは分かりません。体験で大けがをしてもとても悲しいことになるので、階段は上り階段か、下り階段か必ず言うてください。上るときと終わったとき。終わるときにも声をかけてください。そうしないと、私たちの体は階段を上り続ける足の動きをします。上り続ける足の動きで、階段がなかったときには、足がぐくと下がってしまっただけで転倒する恐れがあります。だからアイマスクの方が最後の段に足をついたら、そこで最後ですと必ず伝えてください。下りもそうです。

お互いに気になることを聴くのはいいこと

どうして今日、キャンパス内を歩いてもらったかということ、建物の中の廊下は基本的にものがないって分かっていますよね。建物の外は足元が不安だったり、本当に何もないのかなど不安があると思います。そこを「何かありますか」と聞いても実はいいんです。一緒に歩いてくれる方に対して、視覚しょうがいの方も皆さんも、あまり言うて悪いかどうか思いますよね。でも、お互いのコミュニケーション、何かありますかとか聞いていくのはやっぱりいいことだと思いますし、視覚しょうがいの方と歩くことがあれば、今日体験をしてみて自分が知りたかったことなどを含めて、伝えてもらうといいのではないかと思います。

自分が知っている場所は、とても介助しやすいと思うんですね。高校生の皆さんにとっては、サブウェイって初めて入りましたよね。だから、ドアがどっちに開くのかとか、分からないですよ。介助する人もよく知っているところでは、「次はこういうドアになっていますよ」と、事前にお話ししたりとかできればいいかなと思います。

大学生の皆さん、特に新座キャンパスに通っている方は、今どこ歩いているかと頭の中で描けましたよね。それもメンタルマップ、視覚しょうがいの方も皆さんも、今どのあたりのどこを歩いている、というのが頭に入っていればとても歩きやすいんですね。視覚しょうがい者も、知っていれば

ば「自動ドアのところから1号館に入ってください」とか、そういう歩き方が介助者の方とできたりします。そういうこともとても大切なので、メンタルマップをつくるためにも、皆さんからの情報がとても大切になります。

飲み物を買うところで、皆さんすごく工夫されていたんですが、ついつい「そうそう、そこで」「ちょっとこっちこっち」とか、無意識に言ってしまうんです。でも、指示語を言わない、と思いつぎでも無口になってしまうので、やっぱり無意識で出やすいなということを経験できただけでも次に生きてくると思います。私も皆さんを見ていて、とても勉強になりました。ありがとうございました。

今日体験したことが、これから皆さんが視覚しょうがいの方と会ったときに少しでも役立ったらいいかと思います。皆さん、見えないことは不便だと思っているかもしれませんが、視覚しょうがいの方はとても前向きで意欲的です。見えないからこそいっぱい知りたいと思っているので、いろいろな情報も、皆さんの言葉で伝えていってもらえたらいいと思います。一人一人説明の仕方が違いますけど、それがいけないわけではなくて、視覚しょうがいの方はそこから情報を拾っていきますので、緊張せずに、たくさん話してもらえたらと思います。

もし皆さんの住んでいる場所で、視覚しょうがいの方が駅にいたら、「何かお手伝いすることは



ありますか」と、一声かけてもらおうといいと思います。視覚しょうがいの方は、誰かが一緒に電車に乗ってくれたり、ホームを歩いてくれるととっても安心感があるんですね。もし、「僕はひとりでもいいです」という方がいたら、それは、その方はひとりで歩いて行けるんだと思って、見守っていただければいいと思います。

皆さんも背が高かったり、めがねかけていたり、足が長かったり、いろいろな方がいるように、視覚しょうがいの方も、見えない方とか、見えにくいと言っても、すごくいろいろな見えにくさの方がいます。目が見える場合もみんな一人一人違うように、視覚しょうがいの方も一人一人違うので、同じ仲間として、一緒に社会の中で生きていってお互い手を取り合っていけたらいいなと思っています。

